

ふじさわ子育て支援連絡会

H25.1.22 第6回交流会 10:00～12:00

参加者：17名（13団体）＋乳幼児2名



～交流会議事録～

■前半：団体発表 10:00～

※前半は、連絡会会員の2団体に活動発表をお願いしました。発表順に掲載。

※発表団体からいただいた原稿をそのまま掲載しています。

【藤沢市子ども会連絡協議会 古川京子さん】

藤沢市子ども会連絡協議会は、昭和30年に設立して以来、約60年間活動してきました。地域の子ども会の「相互連絡協調を図り、健全育成の手助け」をすることを目的として、地域の子ども会と育成指導者で構成されています。

近年子どもの会の数が減少傾向にありますが、東日本大震災を機に地域社会の大切さが見直され、地域に根差した子ども会活動が、新聞の紙面に紹介されました(2012年)10月9日付 朝日新聞)

子ども会活動は、スポーツや習い事のように、何かが目に見えて上手になるとか、結果がすぐ出るような活動ではありません。地域の大人が見守るなかで、異年齢の子供たちが「遊び」を通じていろいろな体験をし、自主性や社会性などを身につけること、いわゆる子ども達の「生きる力」育てていくことが、子ども会の目的です。

藤沢市子ども会連絡協議会は、地域の子ども会の応援団として、年間いろいろな事業を計画しています。お配りした広報紙「子ども会」に紹介されていますが、子どもたち向けと、保護者など大人向けに研修会を行ったり、作品展に参加したり、子ども会活動展で一般市民にも広く子ども会活動をPRしたりしています。(※1) (※2)

発表時間の制約もあり、お話できなかったことですが、何か事業を行うとき、安全面にはとても力を入れています。行事でけがのないように、災害にあわないように、子どもたちにも大人にも考えて行動するようにしてもらっています。震災後は特に地震や津波に対しても注意を払っています。万が一事故などが起きてしまった場合には、「全国子ども会安全共済会」で対応しています。

補足(※1)：子ども会に所属している子供に、子ども会行事で楽しかった思い出などを画用紙に描いてもらい、展示される。

補足(※2)：ジュニアライフセービングスクール講習会は湘南地域ならではの行事で、人気がある。

質問1 協議会の理事が高齢化していると聞いたことがありますか？

回答1 理事の中には永年やっている人もいますが、若い人が全くいないわけではなく、小学生中学生の子どもがいる理事もいます。若い理事はPTAの役員などと同様、1年や2年で替ってしまう場合もありますが、3年4年の方もいます。このような方が増えてくれることを願っています。

質問2 人数の少ない子ども会が他の子ども会と一緒に行事をやったりすることはありますか？

回答2 以前に例はあります。

質問3 子ども会を立ち上げたいときはどうしたらいいですか？

回答3 藤沢市子ども会連絡協議会の事務局『公財 藤沢市みらい創造財団』まで連絡をくだされば理事が手続きなどすぐに相談に応じます。

【NPO 法人湘南市民メディアネットワーク 添田さん、中野さん】

NPO 法人 湘南市民メディアネットワークは地域に関わる映像制作、地域の人たちによる映像作りのサポート、動画サイトや映像祭などで誰でも映像を発表できるような場所や仕組み作りなどを通して、地域市民活動を支援、活性化して、生きがいのある楽しい生活空間と豊かな文化の創造に寄与することを目的としている NPO 団体です。その一環で、神奈川県青少年サポートセンターとの協働事業として、不登校・ひきこもり等青少年を対象にした映像制作ワークショップを行なっています。

映像制作を通して青少年たちは、同じフリースペースに通う仲間の発想や視点の違いや意外な一面に出会ったり、カメラを持つ事で普段は行ったことのない場所に行ったり、日常では見過ごしていたものを新たな視点で見たり、あまり話したことのない人にインタビューしてみたりといった事が生じてきています。また共同で作品を作る中でコミュニケーションも活発になったり、人前で喋ったりする事は苦手でも映像でなら自分を表現できたり、作品を発表する事に積極的になっていったりと自己肯定感や表現力、コミュニケーション力を高め、社会参加への一つのきっかけとして有効な可能性が出てきています。

その結果は映像・教育関係者、臨床心理士等の有識者、青少年支援団体スタッフ等を交えての「映像検証委員会」内で協議し、ワークショップのブラッシュアップを行うとともに、他の団体でも映像制作ワークショップに取り組めるようなプログラム制作も進めています。

最後に宣伝となりますが、今年の3月16日に桜木町駅から徒歩10分の神奈川県立青少年センター別館 青少年サポートプラザにて13時～16時30分にかけて「出会い・つながるためのカメラ～青少年の社会参加・コミュニケーションツールとしての映像制作～」と題しました神奈川社会参加映像フォーラムというイベントを行います。当事業で青少年が作った作品の上映の他、映画監督・東京造形大学学長の諏訪敦彦氏の講演、ひきこもりの兄とカメラを通して向かい合ったドキュメンタリー映画「home」の上映等も予定しており、入場無料・申し込み制です。詳細は湘南市民メディアネットワークのホームページ <http://scmn.info/>にて随時お知らせいたしますので、ご興味ある方はよろしくをお願いします。

質問1：制作した青少年の映像のプライバシー等はどうなっていますか？

回答1：青少年の映像は、本人、支援団体スタッフ、保護者の許可（書面で許可をいただいている）がなければ外部での上映等はいりません。また撮影データ等はこちらで責任を持ちまして管理しておりますが、DVD等でお渡しする事もできます。

質問2：ビデオカメラ等の資金はどうしていますか？

回答2：県との協働事業ですので、県からの予算をいただいている他、映像コンテンツ制作事業での収益等も資金に当てています。一部のITソフトなどは、NPO法人だと安く購入できる仕組みがあります。

質問3：不登校や引きこもり対策として社会的に意味のある活動だが、外部評価はどうなっているのか？

回答3：神奈川県の事業には評価委員会があってそこで検証される。5年スパンの事業なので、結果はその最後に現れると思う。

（文責：中野）

■後半：グループ交流 11:00～

テーマ「活動場所ってどんなところ？

～困っているところ、いいところを話し合いませんか？～」

★これまで、過去の交流会で何度も話題にのぼっていた、活動をする時の公共施設等の利用について、事例など交え、良い点・不便に感じている点などを話し合いました。

※後半は、3グループに分かれて意見交換、交流を行いました。

※2人以上で来られている団体の方は、各グループに1人ずつ分かれていただいています。

■Aグループ

- ・労働会館のマイク機材が古いのに、借用料 500 円が高い（二十年経っているのに！！）
→労働会館に要望をだしては？
- ・「300 円でおっぱい育児についておしゃべりする」はもっと狭い地域の活動として特化したほうがよい。付加価値がないと人が集まらないのでは？
- ・公民館のやり方：市民のためのものなのに、子育て団体に対して活動を抑制するようなルールがあるのは問題。行政の方針で『子育て支援に力を入れます！』とうたっているが実態がともなっていない。高齢者の活動優先になってしまう。
- ・facebook でファンページを作りシェアすることも可能。
- ・COOP かながわのお店にはコミュニティルームがあり、誰でも使用可能で（生協組合員になり、メンバー会などサークルを作るとより借用優先度があがる）。予約を取る時、前日でも空いていればOK。

■Bグループ

- ・子育て応援メッセージが始まる前は、自分たちの団体のメンバー募集・活動紹介など宣伝する場がほとんどなかった。
- ・メッセージの他、子育て支援センターができてチラシを置く場所ができるようになったが、それ以前はチラシ置き場、宣伝の場所にも困っていた。
- ・いくつかの商業施設に地域活動のためのチラシを貼る場所があったが「管理が難しい」という理由で、そういった掲示板がなくなってきている。
- ・ネットが普及して、ホームページなどでも宣伝できるようになった。
- ・（使いやすい和室が少ないという話から）→辻堂青少年会館にわりと広めの和室がある。青少年団体として団体登録すると使えるのでは？
- ・障がい児者向けの公共施設では、障がい児者の団体の対して、施設利用料の減免、優先予約がある。子育て支援団体には（藤沢市では）そういった利用料減免、優先予約がない。
- ・商業施設でも無料で貸してくれるコミュニティスペースがある。そこは、参加者からお金を取ってはいけない決まりがあって、借りにくい。→材料費などの実費徴収はOKなのでは？
- ・公民館は「社会教育のための場」、藤沢市労働会館は「勤労者のための場」。「子育て当事者、支援者のための場」はない。
- ・「バリアフリー」という言葉があっても、子育て当事者、支援者のためのバリアフリーにはなっていない。
- ・太陽の家交差点にある「亀吉」（※2）の新事業所（障がい者のための作業所）。将来的には、そういう場であることを理解してくれる（健常者の）市民団体にも活用してもらいたい。
→柱となる事業を持っている団体の空きスペース、空き時間を活用できるのではないかな。
- ・労働会館の利用料は、ボランティア団体にとっては高い。
- ・公民館の初日予約開始時間が、乳幼児子育て中の人には行きにくい時間帯。
- ・市民の家も予約は取りにくいだが、食事可能などのメリットは大きい
- ・青少年会館…青少年団体が優先的に予約出来る。飲食 NG。

- ・ 静岡県の事例（※1：「浜松市子育て情報センター」）、子育て支援団体が優先的に予約が取れる施設がある。
 - ・ 神奈川県聴覚障害者福祉センターは一般団体の利用も可能（無料）
 - ・ 公共施設で（乳幼児のための）飲食出来ないのが問題
 - ・ 公民館での、市で実施している企画は不特定多数参加のチラシ・宣伝がうてるが、市民団体主催の場合は「不特定多数」の参加をよびかけるチラシ・宣伝は嫌がられる
 - ・ テラスモールなど商業施設が開放しているコミュニティスペース活用
- 基本金銭の授受はNGだが、材料費程度なら活用可能なのでは。

※1「浜松市子育て情報センター」…子育ての関連情報の収集や提供等、子育てにかかわる市民の拠点。子育て支援団体が優先的に利用できる会議室、研修室がある。なのはな保育園、浜松市ファミリーサポートセンターが同じ建物内にある。

※2「亀吉」…子育て支援から介護事業まで幅広く事業を手がける、NPO法人 シニアライフセラピー研究所の事業所の通称。子育て支援事業は「子育てサロン亀吉」（亀の子ロッジ）という名称になっている。

「子どもは、自ら育つ力を持っている。それを信じて疑わない子育て支援を行う場。それが亀吉の目指す子育て支援です」

■Cグループ

- ・ 活動場所として公民館が取りづらい。もう少し融通をきかせて欲しい。
- ・ 「不特定多数」のグループは嫌がられる。
- ・ 「ひろば事業」のように、利用後の報告書に、必要ならば当日利用者名簿を提出できるようにすれば良いのではないか。
- ・ 公民館事業や地域団体の行事は、先行予約があり、利用についても、飲食おやつ付きのものがあり、利用料なしで利用できる。
- ・ 利用者がきちんとルールを守り、飲食が出来るようにして欲しい。
- ・ 当日でもあいていたら利用できるようにして欲しい。
- ・ 活動場所があると安心。
- ・ 寺子屋が良い。
- ・ しおさいセンターは、和室が空いている。
- ・ 子育て世代は、和室が望ましい。
- ・ 施設によっては、高齢者のために和室を洋室（椅子）に変えている所もある。
- ・ 小グループサークルは公民館の利用は難しい。
- ・ 利用するには団体やサークル登録が必要だが、利用者親子のサークル化は難しい。
- ・ 意外に世代間交流が難しい。
- ・ 自治会との関係がまいち。
- ・ 乳幼児支援の期間は短い、子育て支援は永遠に続く。必要。子育てにやさしい環境づくりを！

◆交流会後の感想◆

★前半では、子ども会とメディアネットワークの方の話を聞き、ひきこもりの方のサポートの映像など興味がありました。後半、活動場所については、各団体の問題について交流できてよかったです。

★子育て団体以外の団体との交流は有意義ですね。子育ての都合だけの視点になりやすいことでも、客観的な意見が出ると気づきにつながる。

★ありがとうございました。はじめての参加でしたが、情報をたくさん頂きまして勉強になりました。今後ともよろしく願いいたします。

★民間の施設で使い易い場所があるのが分かりました。また公民館がもう少し融通がきくようになって欲しいと思いました。要望書みたいなのをこの連絡会名義で公民館に対して伝えられると良いと思います。

★短時間で場所の話で方向性を見つけるのはグループ内では難しかったです。ただ、今まで参加の少ない方、初参加の団体の方とも話しをして情報交換をすることは、異分野・異業種の方との交流は、やはり意義が大きかったです。

★公民館の今後のあり方等について、何か働きかけできないか、考えさせられました。他団体の活動が自宅近くにあるといいと思いました。

★公民館や公共施設を借用するときに、抽選から漏れたあとのフォローがあるとよいとおもう。次回優先度があがるとか、逆に他の部屋の空き時間帯や日を公開して、稼働率をあげる等。

・公民館で子供向けの『月謝制お教室』があるのに、なぜ非営利な子育て支援団体には使えないのか、謎。サークルの枠を超えているものもあるはず？なのに。

・子育て広場を開催していて利用者に尋ねてみると『親子が集う場がもっと増えるといい』と思っていること。しかし、公共に開かれた公民館側が子育て支援団体の活動に冷たいようだ、支援団体が集う場を企画したり提供したりすることも不可能。自治体の方針と異なるし、『制度だけで表面的な政策』と市民から良い評価をうけないのではないか。

保育所数・予防接種や医療費無料・三人乗り自転車補助など、そういった数的な結果報告以外にも、「藤沢市では市民団体が子育て支援をになってます！」という報告は市議会でも広報紙でも周知徹底していくべき。

・アロマや整体・ダンス・ベビーマッサージ資格の講師も、「子育て支援」という形で、もっとママさんたちの心の安らぎやお子さんたちの成長を願って活動していることがわかった。どうしても講師への金銭が発生してしまうので営利目的？という風にみられがちだが、違う視点をさぐってもよいのかもしれない。

・NPO 法人さんの企業や自治体から共同でお金をもらっているような活動を進めているし、NPO だとパソコンや機器を割安で入手できる情報は嬉しい。

・新興地域での「子ども会を新しくつくろう」という動きが私個人の身近な問題としてあるので、市子連さんの話はありがたかった。

★初めて交流会に参加させていただきました

各公民館でもサークル交換会というのがありますが、このような子育て関連で

集まるというのはとても良い機会に思います

活動場所の話し合いも皆様同じような境遇を感じている部分をシェアすることができたかと思えます

意見交換から、次は行動へ！

団体同士のコラボなど、色々な形でいい方向面白い方向に形にしていければいいなと思っております

今後ともよろしく願いいたします

★7ヶ月の子供を連れての参加でしたが、行くまで億劫だった気持ちも、会で色々な方々が声をかけて下さったり、抱っこして下さり、とても温かい気持ちになりました。参加して良かったです。

また、普段公共施設を利用するに当たり不便に感じていた気持ちを

、ストレートにぶつけられる場所があり、その気持ちを共有したり、受け止めて貰えたことが、なよりの発散になりました。

この会で上がった声を形にし、市民の代表として、市に訴えかけることは、連絡会の本来果たすべき役目であり、素晴らしいことだと思いました。

市民の力で、子育て環境や子育てを支援する環境が、少しでもより良く発展していけるように、市の体制を変えて行けたらいいなと思います。

そして何より、連絡会や子育て応援メッセに集う沢山の子育て支援者を見て分かるように、ボランティアにより多くの子育て世代が支えられているという現状を、市はきちんと理解するべきだと思います。市民に寄り添った条例や、制度へと積極的に変えて行って欲しいと願います。

★連絡会が、みなさんが抱えている疑問や問題意識、情報を「共有する場」になってきた、「確かな場所」になってきたと感じます。こういった「場所」は、たぶん、ずっと前から必要だったのかもしれませんが、ありませんでした。

どうしたらもっと藤沢の子育て支援の輪が広がるか？もっと活動しやすくなるか？

子育て支援団体当事者目線、子育て当事者目線で上がった意見や疑問は、みんなのネットワークを生かし、子育て支援現場の生の声として多くの方に伝えていけたらと思います。

これからもこういった、子育て当事者、子育て支援当事者の想いを集める「場所」が継続されていくことを願います。

◆出欠票にあった意見等◆

★いつも連絡ありがとうございます。

今回も活動日に当たり参加できませんが、みな様の活動紹介は楽しみに読ませていただいております。公共施設等の利用については、私達も保育場所の確保が難しく、（市民の家・団地集会所を使わせてもらっている）週一回、優先的に利用できれば、より活動が充実させることが出来るのと思っていますが…。

★市民の家にて活動しています。

利用料が必要になってから、その工面が多少の負担になっていると感じます。

“子育て応援”という考えから、基本的に利用者（親子）への参加料は求めたくありません。

施設維持のための施設費用を利用する際、負担すると言う考え方も理解できますし、無料だった頃には、雑に使用する方もいらしたと聞くとやむを得ないかとも思います。大きな活動ではありませんし、現状維持のまま、細々と続けていくつもりです。

★市民活動推進センターの会議室を利用して思うことは、

朝8時に予約を取るため行っても先着の方がいて、

研修日程を変更し、講師の都合で日程が延長したことがありました。

（講師に日程の予備日も含めて依頼することにしました）

公民館会議室の利用申込みも手続きが簡単になると良いと思います。

以上です！

最後までお読みくださってありがとうございました！

